

第3回安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会 会議概要

1	会議名	第3回安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会
2	日時	令和6年10月7日(月) 午前10時00分から11時40分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 共用会議室305
4	出席者	笹本正治委員、金井直委員、佐藤亜紀子委員、中村寛志委員、倉石あつ子委員
5	欠席者	百瀬新治委員、丸山亨委員、横山はるえ委員
6	市側出席者	洞教育部長、三澤課長、事務局、逸見係長、児玉副主幹、平沢重人館長、寺島俊郎館長
7	公開・非公開の別	一部非公開
8	傍聴人	1人 記者 1人
9	会議概要作成年月日	令和6年10月16日

会議事項等

○会議の概要

1 開会 (三澤課長)

2 あいさつ (洞部長)  
(笹本委員長)

3 協議

一部非公開について

市情報公開条例第5条第1項1項第5号に基づき協議事項(2)および(3)を非公開とするよう決定した。

(1) 新市立博物館の規模及び既存博物館施設の統廃合について

(事務局説明)

(委員)

「安曇野」はどこの範囲か、定義について検討が必要ではないか。

(委員長)

すぐに結論が出るようなものではないが、この後の名称問題等にも関連してくるので、大きな課題として、まずは委員会として認識しておきたい。

(委員)

規模及び統廃合については、市としてはどれをやりたいのか事務局案を1つに絞って委員会に問われた方がわかりやすいという感想だ。

分野案については自然景観と人々の生活が一緒になってるので自然と歴史を対比するのではなく、自然から見てどのような文化が生まれてきたかを展示すると思う。

(委員長)

「市はこうしたい」と示してもらった方が論議しやすい。

自然や水は文化財にならないが安曇野の中に文化的景観のような形で文化財としてこの自然を残す方策を考えたい。

また、安曇野全域を歩いてもらう形を考えたい。歴史・民俗・自然の三つの部屋を作ると狭くそれぞれが何を主張してるかよくわからなくなる。

新たな博物館を作るということは旧来の博物館をやるのではなくてどこに新しさが設けられて、従来とどこが違ってくるのかみんなが一緒になっていく方策を考えていく。

また、学芸員だけでなく市民活動で行っている人たちにいっぱい案をもらい、お手伝いいただくものとしたい。

自然のもとに文化、歴史が出来上がってることは委員会の共通認識にしたい。

(委員)

歴史的な事象があったとしてもそれには何らかの自然や環境が状況としてあるということがきちんと読み取れるような自然と人が常に行き来するような展示ができれば素晴らしいと思う。

水・自然というのであれば、やはりそこに焦点をあてた展示をデザインする方が間違いないだろう。

人物顕彰はいかがなものか。

褒めたたえる「顕彰」ではなく検討する「検証」が必要だと思う。

存続館のあり方とも関わるが、飯沼飛行士、貞享義民記念館は大事なコンテンツだが、施設に預けることによって文脈が見えなくなると、もったいない。

議論を個別化しないことが重要だろうと感じる。

分野で2案あるが、

「自然・景観から歴史・民俗へ」の案1に近い形で検討の方が面白いと思う。

規模については「豊科郷土博物館自体の扱い方」で収蔵施設としては機能するのではないか。

さらに収蔵展示であるとか、ガイドンス展示等々収蔵施設のアクティブな形を示すこともできるのではないか。

老朽化の程度など具体的な問題があるのかもしれないが、A・B案の上にオプションとして市内の博物館が乗ってくるようなアイデアはあるのか。

「人が歩く」のも、とても重要。いくつもの施設を歩きながら、そして間で拾ヶ堰を見ながらなど、とてもいい経験ができて、まさにエコミュージアムの体現だ。

さらに魅力のある建物をどうやって作っていくかも重要だ。街を歩き地域を歩くときに建築的な美しさや魅力も大事な要素なので、どこかのタイミングで提言したい。

(事務局)

基本線としては新博構想が作られた頃から新しい建物を作るのであればなるべく統廃合していかねばならないという市の方針がある。

どういう生かし方ができるか、ご提案いただいたことについても検討はしてみたいというふうと思う。

(委員長)

従来のような博物館でよいのかと思っている。

学芸員が全てやっていつも決まったようなことをやってるよりも、どのようにしたら市民が活動的になるか。そのときに学芸員はどのくらいお手伝いができるか。

他自治体を見ても建物博物館ではなくて、人が博物館になっていく時代だ。

(委員)

駐車場はどのように考えているか。場所にもよるが重要な要素だと思う。

(事務局)

構想の中では敷地面積 10,000 m<sup>2</sup>。

しかしながら、それだけの土地を手に入れるのはなかなか難しいところ。

少し検討させていただきたい。

活動体験についても触れたが子供たちが何か博物館の前庭とかで遊べるようなスペースも欲しい。そういったところもこの案の中に含めていきたい。

(委員長)

立地条件等を考えるに際して今のような要素も含めながら、考えていきたいと思う。

(委員)

具体的な案を市から出してもらい、私達は「これでいいか」検討する立場だと思う。

もう少しはっきり事務局の態度を示してもらいたい。

人物顕彰は、顕彰する人の研究の幅によっても違う。

特別展示でやるような取り上げ方もできる。

自然とか、暮らしの中で人物顕彰するべき人が出来上がってきてるので、顕彰する必要はあるが、常設展示等でやる必要はないと思う。

(委員長)

立地条件が決まってない限りどれぐらいの面積でどれだけの部屋が取れるかもわからない状況なので自然を前提としてやっていくことを本委員会では確認をした。

人物顕彰は私もすごく難しいなと思う。

何をもって顕彰者にして、何をもって対象にしないのか。特に対象にしない場合の評価の問題等もある。現在でも顕彰している館がある。その辺も含めて議論していきたい。

- (2) 新市立博物館の立地条件 (非公開)
- (3) 博物館施設の名称について (非公開)
- 4 その他  
特になし
- 5 閉会 (11:40)